

目の前の 物事を みつめる

美術館

でもよく見かける「リアリズム」という言葉。日本では写実(ありのままをうつす)主義とも訳されますが、よく見てみると、その作品の表現は時代や芸術家によってずいぶん異なります。写実なのになぜ多様なのか、近代以降の芸術家にとって「目の前の物事をみつめる」とはどういうことだったのか、当館学芸員がお話しします。4回連続の講座ですが、1回のみのお聴講も可能です。

時間 | 各回とも 14:00-15:30 [開場 13:30]

会場 | 佐藤忠良記念館 (宮城県美術館別館)
地下1階アート・ホール

- | | | | |
|-----|-----------|------------------------------|-----------------|
| 第1回 | 8/22 [日] | 大正期のリアリズム
岸田劉生を中心に | 濱崎礼二
(当館学芸員) |
| 第2回 | 9/12 [日] | 近代日本画のリアリズム
速水御舟まで | 菅野仁美
(当館学芸員) |
| 第3回 | 10/3 [日] | 昭和期のリアリズム
松本竣介と長谷川湊二郎の場合 | 加野恵子
(当館学芸員) |
| 第4回 | 10/24 [日] | 近代日本彫刻のリアリズム
高村光雲から佐藤忠良まで | 土生和彦
(当館学芸員) |

対象 | 18歳以上の宮城県民

定員 | 50名程度 [事前申込制] (先着順)

参加費 | 無料

申込 | 宮城県美術館 教育普及部まで
電話で申込み TEL:022-221-2114 (直通)

申込期間 | 2021年7月21日 [水] - 8月21日 [土]
9:00-17:00 ※休館日は除く。

▼新型コロナウイルス感染症予防のためのお願いがあります。
詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/news20200228.html>

▼実施につきましては、新型コロナウイルスの感染症対策のため延期や中止とさせていただきます場合がございますので、事前に当館ウェブサイトや Twitter、お電話にて御確認ください。